

第3期 (2005年度) S S C S (Small Schools for Civil Society)

インターンシップ奨励プログラム

活動カリキュラム(2005年6月~2006年6月)

■団体概要

記入日 2005年2月

団体名 (小さな学校)	特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター
代表者・連絡担当者	代表者 代表理事 赤石和則 連絡担当者 中村陽一、越河澄子 ^{こすごう}
団体住所等	〒330-0064 埼玉県さいたま市浦和区岸町 4-25-15 小松ビル 301 TEL:048-835-4311 FAX:048-835-4312 E-mail: office@sa-npo.org URL: http://www.sa-npo.org 連絡のつく曜日・時間帯:平日(午前10時~午後6時の間)
設立時期	1999年10月設立

団体の活動目的と活動内容

新しい地域社会の仕組みの開発・提案および市民による社会貢献・社会変革に関する活動の支援を行うことを通して、市民自らが社会的課題を解決し、新しい価値を創造する市民社会の実現をめざしています。

「埼玉NPO連絡会」を母体として、1999年、県内初の「中間支援」組織として設立。以来、県内1000人を超える市民とともに市民主体のまちづくりを進めることをめざした「さいたま介護保険サポーターズクラブ」、400人の市民とともに進めた介護保険利用者実態調査と地域福祉計画市民研究会の運営、県内950の市民活動グループを紹介した「埼玉NPOつながリスト」発行、NPOに関する各種講座・フォーラム・研究会(市民的調査研究術講座、埼玉NPOフォーラム)の開催、NPO運営や法人化に関する相談活動などを通じて、市民活動の支援と促進のための社会的基盤整備の活動を進めています。

■活動カリキュラム

活動名	ネットワーキングを形にするものとしてのNPO体験
主な活動場所 最寄駅名と駅からの距離	上記事務所および埼玉県内の市民活動団体事務所 最寄り駅: JR浦和駅から徒歩7分

<p>スケジュール</p> <p>2005年6月19日</p> <p>6月～8月</p> <p>9月</p> <p>9月～11月</p> <p>12月～2006年3月</p> <p>3月（～6月）</p> <p>6月</p>	<p style="text-align: center;">＜活 動 な ど＞</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">※カリキュラムは、状況や事情により変更になる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSCS入校式・事前研修（第2期インターン修了報告会と併催）に参加して、他のインターンとの交流・理解を深める。 ・インターン開始 <p>ガイダンス①さいたまNPOセンターとその活動、②NPO前史—市民とネットワーク、③ネットワークを形にするものとしてのNPOとは？④埼玉のNPO・市民活動を知る、⑤市民活動の「現場心得」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民講座」のプロジェクト員の一員として市民講座プロジェクト会議に参加 ・「さいたまNPOニュース」編集委員会の一員として編集会議に参加 <p>※この時期、(a)会議議事録をとる、(b)資料管理をする、(c)会議と会議の間の時期に必要な実務を進める、などのOJT研修をしていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSCS中間研修に参加して他のインターン・団体との交流・理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・「市民講座」開催に関わる実務と進行補助 <p>※これと関わるOJT実務は、開催通知を行う、開催場所の決定、講師との打ち合わせ、広報、参加状況の確認と促進、当日の進行準備、会場設営、市民講座のまとめと記録、センターニュースレターへの報告執筆などです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さいたまNPOニュース」の編集・発行に関わる実務 <p>これと関わるOJT実務は、担当記事の執筆と、校正、発送先の確認と準備、発送作業、発送後の整理などです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民講座」開催に関わる実務と進行補助 ・「さいたまNPOニュース」の編集・発行に関わる実務 <p>上記OJTに加え、この企画によってもたらされる成果は何か？その社会的意味とは？どのような新しい価値の創造につながりうるのか？等等について、両プロジェクトの関係者（県内市民活動団体・NPO関係者、センター理事・スタッフ）と意見交換、討議の上で考え、ショートレポートにまとめていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民講座」、「さいたまNPOニュース」両事業のまとめに関わる実務 <p>※これと関わるOJT実務として、企画し運営する仕事のまとめ方（評価、今後の課題整理）を学習し、両事業に対する感想と提言をまとめていただきます。</p> <p>ふりかえり：①インターンを通して学んだこと、②自分としての課題、③NPOセンターへの提言、をスーパーバイザー、メンターをはじめ、センター理事・スタッフとの対話を通じてまとめていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSCS修了報告会で活動の成果を発表（活動終了後、報告書を提出）
<p>総括的な受け入れ指導者名（スーパーバイザー）：中村 陽一 日常的な受け入れ名担当者（メンター）：越河 澄子、中村 陽一</p>	

■インターンに期待すること（求められる専門性、技能などについて）

特別な専門性や技能などは必要ありません。予断や先入観をもたずに、多様な市民活動・NPO関係者とのふれあいの中で、自らの歴史的・社会的な制約としての「殻」を打ち破っていくような明るいたくましさ、他者への関心と配慮をもてる方を期待し、歓迎します。きっとあなたがいままで出会ったことのないタイプの面白い「大人」（やときには同世代人）と遭遇し、共生のアート（技芸）としてのネットワークを机上ではなく体験的に学ぶことができるでしょう。

■団体の活動を理解するために役に立つと思われる資料や情報

当NPOセンター発行の書籍・報告書（当センターで閲覧可。

日本NPOセンター資料室に一部あり）

中村陽一・日本NPOセンター編『日本のNPO/2000』、『日本のNPO/2001』日本評論社

当センターWEBサイト

■その他

若い世代のみなさんは、どのようにして市民の活動に関心をお持ちになったのでしょうか？もしかすると、NPOから入って、関心を持ったかもしれませんね。もちろん、それでいいのですが、今日のNPOに至る長い長い市民の動きの歴史や背景があり、いまでも、一括りにはできない多彩な活動が、多様な課題や問題をきっかけに、特に地域では繰り広げられているということを、さまざまな「現場」や人と接するなかから、ぜひ、体験的に知っていただきたいと思います。

と同時に、それらの具体的な活動やそこで動く個々の人たちが、何を願って、何のために動いているのか、（簡単にわかったつもりにならず）対話や観察のなかでしっかりと目を凝らしていただきたいとも思います。

そのうえで、今回、テーマにもなっているネットワークングということの現代的な意味と一緒に考えてみましょう。それは、いま、さいたまNPOセンターが地域で活動を進めるうえで真剣に考えていきたい大切なテーマの一つでもあります。

それらとともに、NPOとはいまの社会にとって、地域にとって、日本および日本人にとって何なのか、その位置や果たすべき役割について、ローカルなところからグローバルな視野に至るまで射程に収めることを意識しつつ、意見交換し、ともに考えていくことで、さいたまNPOセンターも学んでいくつもりです。

スケジュール案にも書いたとおり、日常的には、実務をOJTによってしっかり身につけていただくことも今回の眼目です。実務のプロセスを通じて、あなたの若い感覚によって、思いもかけぬアイデアや提案が出てくることも期待しています。

SSCS 先輩からのメッセージ

齊藤康晴 第2期インターン 大学4年（参加当時）

中間支援組織として、NPOのネットワーク化を図るさいたまNPOセンターでは、インターンとしての活動を通してさまざまな人と出会うことができます。僕の場合、いろいろな分野のNPOスタッフを始め、行政職員、企業の方、そして市民のみなさんなど、たくさんの人々と一緒に仕事し、時にはお酒を飲んで語り合いました。そうした人とのつながりを通して、NPOについてはもちろんのこと、市民活動を行っている人々の思いや考え方、生き方などを直接感じられるので、とてもよい刺激を受けながら毎日活動できます。また、カリキュラムもとても充実しているので、常に「学ぶ」という意識を持って活動できれば、一年後には大きく成長した自分を実感できると思います。
